

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300287		
法人名	有限会社 かもん		
事業所名	グループホームやたさん元気村		
所在地	奈良県大和郡山市矢田町4446-4		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成23年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者がゆったりと過ごせる空間作りをしています。外出の機会を増やし外に出る楽しみを支援しています。介護者が楽しんで介護をしています。自家農園で栽培した野菜をふんだんに使用し毎日の食卓を豊にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、市の北西部の矢田丘陵の麓に民家を改造され開設しています。代表者は、事業開始以来、地域との関わりを大切に運営された事から、さまざまな分野で住民の理解・協力が得られています。利用者は、外出機会に恵まれ、一人ひとりの機能を活かしながら自分のリズムで穏やかに過ごされています。なお、定期的に看護師の訪問があり、適切な医療確保と健康管理への配慮がなされています。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で理念の実践に取り組み、入居者には元気の出る介護理念を掲げ提供し、日常勤務の中で実践している。	人権の尊重・身体拘束等の禁止を基盤に、地域住民との交流重視の理念があり、職員も深く認識し実践に活かされています。なお、事業開始以来、地域社会との関わりを大切にしたい運営がなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の中で、挨拶をかわしたり、地域の祭りや行事には、積極的に参加したり、当ホームの行事には近隣のかたがたをお招きして日々交流を持っている	地域社会の一員と認識され、地域の行事や社会活動への積極的な参加・事業所行事への招待等により交流が図られています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	郡山市が行っている介護事業、サポーター養成講座の講師として地域へ認知症への理解を求める活動をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的に取り組んでいる。	幅広いメンバーで構成された運営推進会議が設置され、定期的開催されています。会議では、利用者の状況・地域活動等の報告や運営上の諸課題について意見交換等がされ、開陳された意見等は運営に反映させる取り組みがあります	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大和郡山市担当者及び包括支援センター等の各担当者と機会あるごとに指導を受けている。	行政担当の窓口を定期的に訪問され、運営上の課題の相談や情報交換等による連携強化に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念にも掲げ研修の場においても職員にも理解を求め日々取り組んでいる。	身体拘束による弊害を職員全員が正しく理解され、支援の中で実践されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で取り上げたり、行政から送られてくる資料の提供を行い、職員間の申し送りをしっかりと行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がおられ、職員もその制度については学ぶ機会も多く、活用し、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明後、必ず質疑応答の体制をとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が月1回ホームを訪問し、入居者の方や、家族の方の要望を受けてくださる機会を作り、個々に担当スタッフを決め、話しやすい環境づくりに勤めている。	家族の訪問時や家族会等で意見・要望等を聴取され、記録・検証し運営に反映する取り組みがなされています。また、毎月訪問のある介護相談員に利用者が要望等を伝える機会も確保されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の研修時、必ず要望や意見を発言する機会をつくっている。また、提案する内容が反映されるように努めている。	毎月の研修会等で、運営に関わる事項について意見交換等がされ、必要な事項は反映させる取り組みがあります。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境が労働力に反映されていると自負している。給与も定期昇給は当たり前、年2回のボーナスでは各自が向上心を持てるよう配慮している。また、日々職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には積極的に参加を促している。また、それを研修時に発表してもらい自己実現に努めてもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のネットワークづくり、グループホーム協会会員ホームとの交流等を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方とゆっくりとコミュニケーションをとるように努めている。特に初期は夜間に不安をもたれないように安心を持てる環境づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を聞き、何度も話し合い、信頼関係を築くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話し合い、どのサービスが本人に合っているかまた、家族が望んでいるかを話し合い対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者も職員も入居した時点から共同生活者であるという考えで、本人から学んだり、支えあう関係づくりをしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対する家族の想いを聞き、それに添えるよう支援し、生活状態に変化があれば共に介護体制に加わっていただき、一緒に本人を支えて行ける関係づくりをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会があれば家族の理解を得てできるだけ快く会って頂けるよう支援している。	一人ひとりの思いを大切にされ、買い物・散歩等できるだけ馴染み関係の維持・継続への支援に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団樂の時等に、お互い懐かしい話などで話すきっかけを作り、会話できるように関わり、共同作業(洗濯たみ、食器の片付け、お掃除)で、お互いが、いたわり、支えあえる関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も手紙、電話面会など利用者の様子が終末期までわかるよう支援している。また、独居の方においては庇護者となり、運営者が責任をもって対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人のニーズを引き出し、家族から情報を提供していただきその人らしい生活が送れるよう支援している。	一人ひとりの日々の暮らしの中の言動や意向の把握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	保護者や入居前に関わられていたケアマネージャーに本人の生活歴や情報をできるだけ多く聞き対応している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の勤務交代時に引継ぎを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に課題をモニタリングし、介護計画に反映している。	介護計画の作成とモニタリングの必要性を深く認識され、適宜関係者が相談し、現状に合ったものとなるよう取り組まれています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をわかりやすく個別に記録し毎月のケアカンファレンスで情報を共有し、介護計画に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに担当介護者がつき本人や家族の要望に応えるようにし、サービスに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の持つネットワークを活かし出来るだけ、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医の受診、本人の変化についての相談、看護師による訪問変化があれば家族にその都度連絡をしている。歯科、においては	かかりつけ医については、契約時に相談され、本人の希望を優先した医院とされています。なお、定期的に看護師の訪問があり、適切な医療の確保が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、医療への対応もしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したとき、治療計画や退院の目安となる日程を聞き、早期退院に向け情報交換や、家族の相談に応じている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、病院、看護師との連携をとり、運営者が窓口となり、全体として支援に取り組んでいる。	終末期に対する明確な対応指針があり、利用時に説明されるとともに、状態に応じてその都度関係者が協議する事とされています。なお、職員への協力と周知が図られています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修時に応急手当や、急変時の対応を話し合い、消防による救急対応の訓練も受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域を巻き込んだ非難訓練を年2回行って、全職員が身につける努力をしている。	消防署の指導の下、定期的に消火・避難訓練が実施されており、地域住民の参加にも広がりが見られます。なお、震災に備えて最小必要物品の備蓄もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩と考え、対応している。	運営理念の柱の一つである「人権の尊重」を常に念頭に置き、一人ひとりに合わせた言葉掛け・語調に配慮した対応に努められています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知の程度により、思いを表出できる場面を作り、選んでもらえる場面では自己決定への支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その場面で臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや、化粧などその人らしい身だしなみが続けられるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの農園にて収穫できた野菜の整理や食事の準備、片付けは一緒にしている。また、職員も一緒に食卓を囲み食事を楽しむよう支援している。	自家菜園での野菜の収穫・整理や食事の準備と後片付け等で個々の能力に応じて協働され、職員と一緒に和やかな雰囲気の中で食事がされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分はきちんと把握し、その方に応じた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行い、本人も習慣となっている。歯科医師による口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人なりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導することにより排泄の失敗を少なくし、おむつ減らしの支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンの把握・記録と行動観察よりトイレ誘導が行われ、自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握により散歩や、体操、水分を多めに取るなど工夫をしている。便秘がちな人は医師、看護師とも相談し、できるだけ薬にたよらない排泄になるよう援助している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴時間はゆっくりとその人に応じ、対応しているが入浴日は決めて行っている。	基本的な入浴日や入浴時間帯の設定はされていますが、本人の希望を優先した支援に努められています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自居室にて常に安心して休息して頂けるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の把握を行い変化に応じ、医師に指示をうけ、調剤薬局との連携で服薬指導も受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が役割を持つことで生き生きと生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が個別ケアで外出支援を行って出かける楽しみが持てるよう支援している。	外出の有効性を理解され、周辺散歩の日常化や買い物・外食等による外出機会の確保が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さはそれぞれ理解されているが認知が難しく、管理はホームで行い、それぞれ買い物に出たときは自分で財布から支払いをしてもらえるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンをしたり花を生けたり手作りのカレンダーや作品、写真も掲示している。	共用空間は広いとは言えませんが、清掃・整理が行き届き、清潔感があります。また、換気・採光の工夫をされるとともに、季節感を大切にした装飾もあり、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等自由に好きなところで過ごせるように、ソファや椅子の配置をしてある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参していただいている。又、本人が居心地良く過ごせるよう椅子やレクリエーションで作った作品やカレンダー等もある。	使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に見守り、声掛けを行い、自分で出来る事には手を出さず、自立できるように、機能が損なわないように支援している。		